同友やまがた

よい会社をつくろう／よい経営者になろう／よい経営環境をつくろう

01
2014
JANUARY

山形県中小企業家同友会
月刊 同友やまがた

2014年　年頭の挨拶

中小企業振興条例元年

魅力を集い、共に歩もう！

第11回経営研究集会
社員と共に夢をかなえる企業づくりをしよう

第11回経営研究集会 基調講演
「菓子創りは夢創り～大切なことを大切にする組織づくり」

謹賀新年

山形県中小企業家同友会
代表理事　安藤　昌則
代表理事　松田　　浩

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様をはじめ関係各位の皆様に謹んでお慶びを申し上げます。

昨年は「出雲大社60年・伊勢神宮20年に一度の式年遷宮」という節目の年でございました。伊勢神宮の鷹司尚武大宮司は「神宮は変わり続けているからこそ変わらない。20年に一度、国も人も若返る。常若（とこわか）を願い祈る。形や心を次の世代に新しくして伝える。同じものを全く新しいものでつくり変えるからこそ、いつまでも新しい。遺跡ではなく、今生きている神宮」（平成25年朝日新聞記事より一部抜粋）と仰っています。古から受け継がれるこの想い・精神性は、経営のお手本だと感じます。経営者自身が、心の底から絞り出した宝石を具現化した、経営理念の根幹に関わる大切な部分だと気付かせて頂いた年でありました。

さて、中小企業憲章が平成22年に閣議決定されて丸３年が経過し、政権も交代され、中小企業を取り巻く経営環境は大きく変化しております。昨年10月に開催された金融庁主催の座談会への参加や、11月に岸本東北財務局長様からご来局頂き開催された懇談会など、私たちの声をお聞き頂ける機会が、今まで以上に増えて参りました。今後は、会員の皆様が自社企業として、各々の地域における中小企業振興条例に基づく施策に応えられるかが問われて参ります。そのためにも例会・専門委員会・部会や全国で開催される行事に、主体的に参加して、より一層の資質の向上を計り、経営に反映させて参りましょう。

今年も、中小企業で働く全ての人が“誇り”を持って暮らせる地域社会の実現に向けて、「知り合い」「話し合い」「分かりあい」「援け合い」ながら連携を深め、今まで以上に地域に寄り添えるよう、山形同友会として全力で取り組んで参ります。

結びに、会員の皆様・社員様・ご家族様・お取引業者様をはじめとする関係各位のご健勝・ご多幸と、益々のご繁栄を心からご祈念申し上げ、年頭のごあいさつと致します。

社員と共に夢をかなえる企業づくりをしよう

11月28日、「第11回経営研究集会」がホテルメトロポリタン山形にて開催され、会員はじめ会員企業の社員、ゲストの方など300名が参加しました。

各支部・委員会の１年間の学びの集大成として位置づけ、スローガン「社員と共に夢をかなえる企業づくり」をめざし、第１部 基調講演、第２部 経営課題毎の３分科会に分かれ学びを深めました。

菓子創りは夢創り
～大切なことを大切にする組織創り～

第１部の基調講演は、長野県伊那市にある㈱菓匠Shimizu清水慎一社長が「菓子創りは夢創り～大切なことを大切にする組織創り～」のテーマで講演。

社員と「何のために働くのか」を深く掘り下げ、一番大切なのは社員の喜びと感動、そして社員の家族の喜び、取引先、取引先の家族だと、お客様や社員とのパートナーシップの大切さを強調しました。

家族で夢を語る時間をつくる「夢ケーキプロジェクト」は、誰かのために努力する“他喜力”で、人に役に立つことが自分の喜びになり、そのことが社員の成長につながると語りました。

社員を本気にさせる清水社長の熱い想いに触れ、「社員に夢を語り、社員と一体となってお客様と夢を語りたい」「感動と喜びを与えられる人になりたい」「より社会性の高い大きな目的が人の成長にとって大きいことを再確認した」と参加者の感動をよびました。

社員と一体となった企業づくりをめざして

引き続き、３つの分科会が行われました。第1分科会（経営指針）は、㈲山形商美社 代表取締役 服部正氏（山形支部）が、「社員と夢の共有が出来る羅針盤作成」のテーマで、辞めていく社員から「まともな会社で働きたい」と言われたことをきっかけに社員と夢の共有が出来る企業づくりへの挑戦を報告。

第２分科会（社員共育）では、「私の覚悟　本気で自分が変わる」と題して、㈱朝日測量設計事務所 代表取締役 小林敏郎氏（山形支部）が報告。会議の中で、思い、言葉が伝わらないもどかしさを、この夏、社員と共に行った豪雨災害プロジェクトを通じて、経営者の本気さと業績が見える取り組みで徐々に社員と一体化していく実践を報告しました。

第３分科会（政策）は、「条例の活用で自社と地域を元気にしよう」と題して飯豊町商工観光 課長 小松一芳氏が報告。企業撤退による、町の存続に危機感を感じた職員が、これしかないと「飯豊町中小企業振興条例」制定までの取り組みと企業は地域に不可欠な要素、協働は成長の原点と町の存続への思いを報告しました。

第３部の懇親会では、庄司実行委員長（置賜支部）が「どうしても清水社長をよびたい」との想いで、７月に実行委員会がスタートし、過去最高の参加者となったことへの御礼を述べました。

今経営研究集会は、女性会員が初めて実行委員長を担当し、目標の２倍の参加者を募った置賜支部や女性部会の強い連帯感が成功の柱となり、新たな運動の成果を掴んだ集会となりました。

基調講演
「菓子創りは夢創り～大切なことを大切にする組織づくり」

株式会社菓匠Ｓｈｉｍｉｚｕ　代表取締役　清水慎一氏

長野県伊那市から参りました、菓匠Ｓｈｉｍｉｚｕという菓子屋をしております清水慎一と申します。自己紹介を兼ねて、菓匠Ｓｈｉｍｉｚｕを紹介させて頂きます。今年で創業66年になる和洋併売の菓子屋ですが、おじいちゃんとおばあちゃんがまんじゅうの卸を始め、父と母が継ぎ店舗をつくり私が３代目です。

今は菓子屋をさせていただいておりますが、大学を卒業するまでは絶対菓子屋にはなりたくないと思っていました。なぜならば、うちの父と母は朝起きるとすでに働いていて、学校から帰ってきても働いていましたし私が寝た後も働いていました。しかし一生懸命に働いている割には繁盛してないなと、子どもながらに分かっていました。当時友達は外食に行ったり、夏休み冬休みに家族と一緒に旅行に行ったりしていましたが、うちではそういうことは全くありませんでした。それを羨ましいと思ったことはありませんでしたが、なんとなく朝から夜中まで働かなければならない菓子屋っていやな仕事だと思っていました。その一方で、私は小学校の３年生からずっと野球をしていましたので、将来は高校の教師になって野球の監督になることに憧れていました。

まぶたの裏で語りかける人

東京の大学に入学し、その頃には少し経営が楽になった母が、年に２～３回東京に遊びに来ていました。そんなある日、母が私にお店であった楽しかった話、大変だった話等いろんな話をしてくれ、ちょっと嬉しいと思いました。と同時にこの人の将来はどうなるのかなって不安になったのです。そんな母は「お前は野球が好きだから、ずっと野球をやっていればいいんだよ」と言ってくれましたが、しかし野球を続けることで、「実家は、この母親はどうなってしまうのか？」という気持ちが芽生えました。その時にこの母親を助けてあげなければならない、長男として跡取りとして家に帰らなくてはならないと決心した大学３年、21歳の時でした。

大学を卒業して東京日本橋のケーキ屋に就業しました。有名なシェフたちを見ながら、あんな風になりたいと憧れていましたが、現実は毎日毎日怒られてばかりで、辞めることばかりを考えていました。死のうかと思ったり、仕事を休むために車にひかれようかと思ったときもありました。ある日、缶詰のフタで指を切ってしまいました。その時「仕事をサボれるぞ、ラッキー」と思ったのですが、逆に怒られ絆創膏を貼ってそのまま仕事をさせられました。そんな毎日が辛くて嫌で泣きそうになりましたが、目を閉じるとその都度まぶたに浮かんでくるのは母親でした。その母親は笑いながら「帰ってくるのを待っているよ、一緒に働くのを楽しみにしているよ」と語りかけてきて、それが自分を繋ぎ止めている大きなものでした。そしてある日、突然バシッとどこかでスイッチが入りました。「よし、やってやろう。どうせやるなら日本一になってやろう」「カリスマパティシエたちを超えてやろう」と奮い立ちました。

日本一になるならヨーロッパに行かないと格好がつかないと思い、下心丸出しでフランスに行きました。しかし実はフランス語はしゃべれないし、それどころかそれまで海外旅行に行ったこともなく、思いつきで行動してしまったのですがなんとかフランスで１年半過ごし、その間に絶対働きたいと思っていた３つの店で働くこともでき、素晴らしいご縁や経験をいただきました。

大事なものを取り戻すには

日本に帰り11年ぶりで実家に戻りました。しかし帰って一週間も経たない内に、親子喧嘩が始まってしまいました。当時の私は天狗を通り越し誰の言うことにも聞く耳を持たず、それどころか親に感謝もなく「帰ってきてやってんだぞ」と思っていましたし、言葉に出してもいました。社内もそんな環境なので、私が帰ってきてからの２年間で採用したスタッフは入っては辞め入っては辞めの繰り返しで、結局全員辞めていきました。ただ、私

が帰ってくる前から働いていた二人がいて、両親とその二人が私にとっては最大の抵抗勢力で、「その４人さえいなければ俺の天下だ、この４人さえいなければ菓匠Ｓｈｉｍｉｚｕという会社はもっと大きくなるのに」と本気で思っていましたが、不思議なものでその二人は現在の店長と製造チーフとして私を支えてくれています。

最悪の人間関係が続き、いよいよ我慢の限界がきた私はある決心を嫁さんに伝えます。「出ていくぞ、俺の事を理解しようとしている人間は一人もいない。二人で家を出て店を作って、親父たちの会社をつぶそう」と。そこで嫁さんに「今まで見てきた中で一番かっこ悪い。何の為に実家に帰ってきた？私は残るからあなただけ出ていけば」と言われました。一生忘れられない出来事です。

結婚して７年目に長男が生まれます。ちょうど親や社員との関係が最悪の時です。退院するときに息子を抱いて病院を出ようとしたその時に、ふと頭をよぎったのですが「俺が生まれて退院したとき、誰が抱っこしてくれてたのかな？親父かな？」と。この手の中に抱っこしている息子が、30年後に親父の悪口を言って、けちょんけちょんにけなされるところを想像したらとてもキツイと感じました。そこで初めてこれではいかんと思うと同時に、自分の情けなさにようやく気づきました。

それをきっかけに一つのテーマを掲げました、それは誰もが持っていたものを「取り戻す」ということです。今、いろんな所で子どもたちと触れ合う時間をいただいております。その中で感じるのは、さっきまでケンカしていた子どもたちが５分後には手を繋いで遊び、昨日まで知らなかったのにとても仲良しになる。子どもたちは損も得も恥ずかしさも関係なく笑いたいときに笑って、泣きたいときに泣き遊びたいときに遊ぶ。その純真で無邪気な誰もが持っていたものを、取り戻すことができたら最高だと感じます。そして私が一番に取り戻さなければならないものは親子関係です。そこで両親との関係を取り戻す為に、１日30分間のミーティングを始めました。内容は菓匠Ｓｈｉｍｉｚｕをどんな菓子屋にしたいか、どんな会社にしたいか、清水という家族をどんな家族にしたいかを話し合いました。

そのミーティングの中で、父から「菓匠Ｓｈｉｍｉｚｕの存在価値ってなんと考える？」と質問されました。よく解らなかった私は返答できませんでした。父が考える存在価値は「菓匠Ｓｈｉｍｉｚｕで働いているすべてのスタッフが、仕事が終わった時に『今日も菓匠Ｓｈｉｍｉｚｕで働けて良かった』と思って帰ってくれること」だと言いました。そんな親父を初めてかっこいいと思いましたし、「チームを作る家族を作るぞ、涙を流したりいろんな事の出来るチームをつくろう、家族を作ろう」と決心し今に至っています。

何のために働くのか

菓匠Ｓｈｉｍｉｚｕでは「大切な事を大切にする」をキーワードに、「何のために働くのか」をその問いの一つにしております。当社はスタッフ全員、面接も含めて入社してから半年間は、「何の為に働くのか」「何の為に菓子屋になるのか」「菓子屋になって何がしたいの」を深めます。私が考える菓匠Ｓｈｉｍｉｚｕの答えは、「お菓子を通じて、一人でも多くの子どもたちに夢を与えること」「お菓子を通じて、一つでも多くの家族に家族団欒の時間を提供する事」です。そのために技術を身に付ける、チーム力を身に付ける、そんなことをスタッフたちに言っています。

そしてまた私は、「一番大事なのは一緒に働く仲間である」と言っています。今日も頑張って働いてくれているスタッフたちが、喜び・感動・夢・笑い等に触れることが無く働いていたとしたら、お客様を喜ばすことは絶対無理だとの持論があります。人から喜びをもらった人だからこそ、だれかに喜びを与えることが出来るのではないか。人から感動をもらった人だからこそ、今度は誰かを感動させようと思えることが大事だと思うのです。二番目が社員の家族の喜びで、社員の家族が応援出来ないような職場は絶対いけないと思いますし、菓匠Ｓｈｉｍｉｚｕで働いている事を家族が応援してくれて、誇りに思ってもらえる価値を作りたいです。三番目は取引先の皆さんの幸せで、四番目は取引先の家族の幸せ、五番目にお客様の幸せです。お客様の幸せもとても大事なものだと思っていますが、それは結果でしかないと考えていますし、父も母も「売上なんて上げなくていい、みんなが健康で今日も良かったなと思ったらそれが一番だ」といいます。

お菓子を以て夢を成す

私には色々なことを教えてくれる師が沢山いるのですが、ある師からホスピタリティーということを教えて頂きました。ホスピタリティーとは「おもてなし」と訳するということ。では、おもてなしって何だろうか？「おも

てなしとは何を以て何を成すのか」、それを明確にしていくのがおもてなしだといいます。だからおもてなしのある企業・お店・組織というものは、自分たちのビジョンが明確でなくてはいけないと教わりました。

菓匠Ｓｈｉｍｉｚｕでは「お菓子を以て夢を成す」、お菓子というものは物体ではない、お菓子の向こう側にある風景を日々想像しながら、お客様の夢・幸せ・笑顔・感動を想像していくのだと。これが菓匠Ｓｈｉｍｉｚｕなりのおもてなしの定義です。

家族で夢を語る時間をつくろう

夢ケーキは、子どもたちが家族と一緒に夢を語る時間を提供したいという想いから始まった取り組みです。お父さんお母さんと一緒に絵を描いてもらい、それをもとに私たちがケーキを作ってプレゼントします。2006年からやり始め、ピーク時には800～900件のご応募を頂きました。

そもそもなぜ始めたかといいますと、親が子どもを又は子どもが親を殺したり、夫婦間で殺し合ったり、小学生が自ら命を絶つというニュースが毎日のように流れています。そんな中2006年に隣町で事件が起きてしまいます。それは全国ニュースにもなり、そのニュースを見たときに鳥肌が立ち、ふと脳裏をかすめたのが「事件が起きた夜にうちのケーキを囲む時間があったら、事件は起こらなかったのではないか」でした。

次の日朝礼で、「昨日の事件の原因の一端は、菓匠Ｓｈｉｍｉｚｕにある」と話しました。スタッフたちはクスクス笑いながら「そんな訳ないでしょう」と言っていましたが、そんな中チーフが「本当にそうかもしれない」と涙を流していました。「それなら家族で夢を語る時間を提供してやろうぜ」という事で、本当におせっかいなのかもしれませんが夢ケーキが始まったわけです。

お客様の喜びが自分の喜び

夢ケーキにはたくさんのエピソードがあります。その中でもやって良かったと思える事は、うちのスタッフたちが輝いてきたことです。夢ケーキで大事なのは、おばあちゃんの口癖でもあったのですが「してやっていると思うなよ、させて頂くんだぞ」ということ。この夢を私達が作らせてもらえる、それだけで涙が出てくるときがあります。

その中で子どもたちと一緒にケーキを作って、食べながら喜んでくれたり、お父さんお母さんが涙を流しながら持ち帰ってくれる。そしてその数日後にはありがとうの手紙が、スタッフ名指しで写真付きで送られてきます。そんな中にスタッフ達がいると、「人に喜ばれるって、人の役に立つってこんなにもすごいことなのかと。自分の技術が人の人生を変えてしまう」と、他人に喜んでもらえることが一番の自分の喜びだと気がついてくるのです。これが一番の収穫だと感じています。

ちょっと自慢話ですが、夢ケーキは売り上げ０円です。やり始めた当初は２～３日徹夜に近い状態になっていました。スタッフたちは働いていますので、当然残業代が発生します。その残業代の額はびっくりするぐらいの額になっていましたが、それは当たり前だと思い支払いました。その日の業務終了後、スタッフたちが帰らず集まっていました。そしてチーフを筆頭に私の所に来て、「このお金をもらうのはおかしくないですか？このお金はどこから出ているんですか？」と言ってくれたのです。とても嬉しかったです。

なぜスタッフがそこまで言ったのか？私が伝えたい「何の為に働くの？自分のためじゃないよな。人に喜んでもらうために働こうぜ」と、人間本来が持っていたあるべき心のあり方がきちんと伝わっていて、そんなことからも夢ケーキから教わったことが沢山沢山ありました。

菓子屋で良かった

もっといろんなエピソードがありますが、その度に私達は成長させていただきます。そんな関係を築けていることもありがたいと思いますし、何よりも菓子屋になりたくなかったと思っていた自分が、今では菓子屋で良かった、菓子屋しかないなと思えるようになりました。それは両親のお蔭だと思います。

私はスタッフたちやもちろんその家族の幸せの為に、菓匠Ｓｈｉｍｉｚｕというお店を繁栄させていきたい。もっと言ったら、個人的ではありますが父と母がお前が店を継いでくれて良かった、生んでよかった、お前が息子でよかったと思ってもらえる毎日を作っていきたいと思います。

私は菓子屋が世界を救うのだと大口をたたいていますが、本気で思っています。目の前の人たちにほんの少しの喜び、ほんの少しの感動を全国で分けて行けるような菓子の世界を作りたいというのが私の夢です。

第8回理事会報告

◆日時：2013年12月11日（水）16：00～17：30　◆会場：同友会事務局　◆議長：松田代表理事・中村副代表理事
◆出席：青柳、阿部（和）、安藤、伊藤、及川、齋藤、佐藤（一）、佐藤（弘）、佐藤（松）、島貫、庄司、菅原、中村、松田、若木、川合相談役、事務局：矢作、髙橋　出席数：18名　委任状4名

議長を、はじめに松田代表理事後半中村副代表理事が務め、安藤代表理事の開会で始まり下記の議事をすすめました。

■報告事項

1）中同協関連

①中同協第26回社員教育活動全国研修・交流会（阿部理事）

専門委員会の同じ考えを持つ人が集まり、非常に意識やレベルが高かった。2015年に山形開催が内定しており、中同協では３月で承認される。山形からは４名の参加者で少なかったことを反省した。

②第１回支部長・委員長・部会長会議（11/28）（及川理事）

「同友会を楽しんでますか」のテーマで、支部の課題等を話し合う機会となった。

2）委員会・部会関連

①社員共育委員会（阿部理事）12/4宮城同友大学を見学。会員数・講師・受講者数などの不安があったが、アドバイスをいただきすっきりした。山形同友会のビジョンに2015年に同友会大学開校があり、今期中に社員共育委員会でプロジェクトを発足し、事前準備をして2015年に何とか第一回をスタートしたいと思っている。

②経営指針委員会（菅原理事）1/25に経営指針を知る会を開催。第1部は阿部理事より「労使見解」、第２部は、「経営理念の理解」の内容で、赤塚経営指針副委員長が報告。第19期経営指針をつくる会の受講生目標は12名を予定、現在３名の応募がある。

3）事務局就業規則改正の進捗状況（安藤代表理事）現在、最終段階にあり、法的な部分チェックをし、次回の理事会には上程する。

4）11月月次決算報告（矢作事務局主任）

■承認事項（入・退会承認）　３名入会２名退会　12/11現在　４０９名

■討議事項

議題１：第11回経営研究集会を終えて

庄司実行委員長より、参加者266名と参加目標を大きく上回ったことへのお礼の挨拶があった。

各支部の参加状況の確認をし、基調講演、各分科会の特徴を確認した。運営面の課題を確認し、次の新春交流会に申し送りをすることとなった。なお、第11研のまとめ、収支報告は、12/16第6回実行委員会でまとめ、１月理事会に報告する。

議題２：2014年新春交流会の件

佐藤実行委員長より、開催要項（案）と開催目的の提案があり、承認された。各支部の参加目標を決定した。

・日時：2014年１月23日（木）15：30開会
・会場：山形国際ホテル
・講師：㈱高田自動車学校　代表取締役　田村　満氏（岩手同友会代表理事）

議題３：専務理事の件と組織図の件

安藤代表理事より、専務理事設置にともなう規約改正することが提案され、専務理事の役割・権限を明確にし、規約改正（案）を次回理事会に上程する。組織図については、現行のままとすることが決定した。

議題４：事務局冬季賞与支給と成果評価の件

安藤代表理事より提案があり、予算どおり支給が決定。事務局の下半期評価は査定表を使い、後日面談することを常任理事会で決定していると報告があった。

議題５：なつかしい未来創造㈱への協力支援の件

松田代表理事より、山形同友会としての協力支援の提案があり、会員の方にｅ．ｄｏｙｕでお知らせすることと、新年度予算に計上することが決定した。

議題６：会費未納者の対応について、

安藤代表理事より、連絡がつかず自動的に会費が上積みされていく現状に対して、会としての対応が問題提起された。当面は、同友会規約、申し合わせ事項に則り対応し、今後規約の見直しをすることを確認した。

■その他

1）第30回定時総会の件（安藤代表理事）

①実行委員会の人選について
・実行委員長：後藤智樹氏
・副実行委員長：伊藤雅子氏、伊藤誠氏
・実行委員：各支部にも依頼

②開催日程等について
・日時：2014年4月22、23、24日頃　講師の日程で調整中
・会場：ホテルメトロポリタン山形（予定）
・講師：検討中。

2）第44回中小企業問題全国研究集会の取り組みについて
目標：４～５名
・日時：2014年2/13～14　広島

3）山形県企業データベース（発行：山形新聞社　@1400）の購入協力について

4）次回理事会
●日時：１月８日（水）16：00～18：00
●会場：同友会事務局
●議題：①2014年定時総会にむけて
②議案書草案
③その他

5）年末年始に伴う事務局体制について
12/28（土）～1/5（日）になります。

■閉会挨拶　松田代表理事

新会員紹介

◎駒澤　好美氏
㈲菅原運送
業務支援グループ
村山地区営業担当
業種　運送業
山形支部

◎仁藤　貴博氏
㈱タカトシ建装
代表取締役
業種　塗装工事業
寒河江支部

◎佐藤　辰徳氏
㈱やまや園
常務取締役
業種　農業・レストラン
さくらんぼ支部

支部・会員名・企業名・役職変更

●㈲若葉建築（寒河江支部）　専務取締役　阿部敦氏
⇒　代表取締役　に変更
●西川企業㈱（寒河江支部）　専務取締役　渡邊太郎氏
⇒　代表取締役　に変更
●ヘアーサロン辻（寒河江支部）　店長　辻佑輔氏
⇒　ヘアーサロンtoccare　代表　に変更

From Editor

★2014年、どんな１年にするか。毎年のことですが、「中小企業家しんぶん」１/15号の新春座談会からスタートです。時代認識、全国の最先端で活躍されている役員の方の経営戦略など、新年度の方針づくりにも参考にさせていただいています。★中小企業家しんぶんは、毎月５日のつく日に月３回発行され、通算1279号となります。紙面には全国47同友会の多種多様な活動、全国行事の取り組み、中小企業憲章、政策、エネルギー問題、地域、平和、新商品紹介、調査活動などが紹介されています。楽しみにしているのが、「季楽」「時潮創流」「同友時評」「円卓」など、誰が書き手なのだろうと想いを馳せ、その行間からにじみ出てくる信念・提言・展望に共感しながら読んでいます。★昨年8月に愛知で開催された「組織強化・広報・情報化全国交流会」では、組織強化と広報、情報化の取り組みを学ぶ機会がありました。（9/15号に掲載）残念ながら山形からの参加者はいませんでしたが、その報告から、広報・情報活動で同友会づくりにつなげていける機会にあることがわかります。★全国の同友会は43000社を要する組織となり、その数だけ情報があり、いわゆるビジネス書にはない中小企業の生きた経営体験、活動情報が得られるようになりました。全国では5万社をめざし、2015年に30周年を迎える山形同友会は、第2次中期ビジョンで700社の組織目標をめざしています。「自主・民主・連帯」の精神で、企業、地域、同友会づくりを一体とした活動を展開していきます。　（由）

第44回中小企業問題全国交流会のご案内

第44回中小企業問題全国研究集会が、2月13日から14日に広島市で開かれます。

一日目は「情勢」「国際化と業種別戦略」「人を生かす経営の実践と仕事づくり」「経営環境の改善」のカテゴリーで18の分科会、二日目は「人が育つ会社づくりこそ企業発展の道」をテーマに特別企画としてパネルディスカッションが行われます。ぜひ、全国の仲間と学び合い、交流を深めましょう。

日時

2014年2月13日(木)13:00
～14日(金)12:00

会場

リーガロイヤルホテル広島、
メルパルク広島、広島国際会議場

参加費

20,000円(懇親会費含・宿泊費別)

開催スケジュール

1日目		2日目	
12:00	受付開始	9:00	全体会開会
13:00	分科会	9:30	特別企画「パネルディスカッション」
18:45	懇親会	12:00	閉会

参加申込み、
お問い合わせは、
山形同友会事務局まで。
申込〆切:1月30日(木)

同友やまがた1月号(2014年1月1日発行/通巻250号)

"知り合い、学び合い、援け合い"
山形県中小企業家同友会

〒990-2461 山形市南館三丁目26-26 スタジオ・アヴァン 102号
TEL(023)645－5500 FAX(023)645－5583
URL:http://yamagata.doyu.jp/ E-mail:info@yamagata-doyu.jp